

# 視察研修報告書

伊平屋村

## 目 次

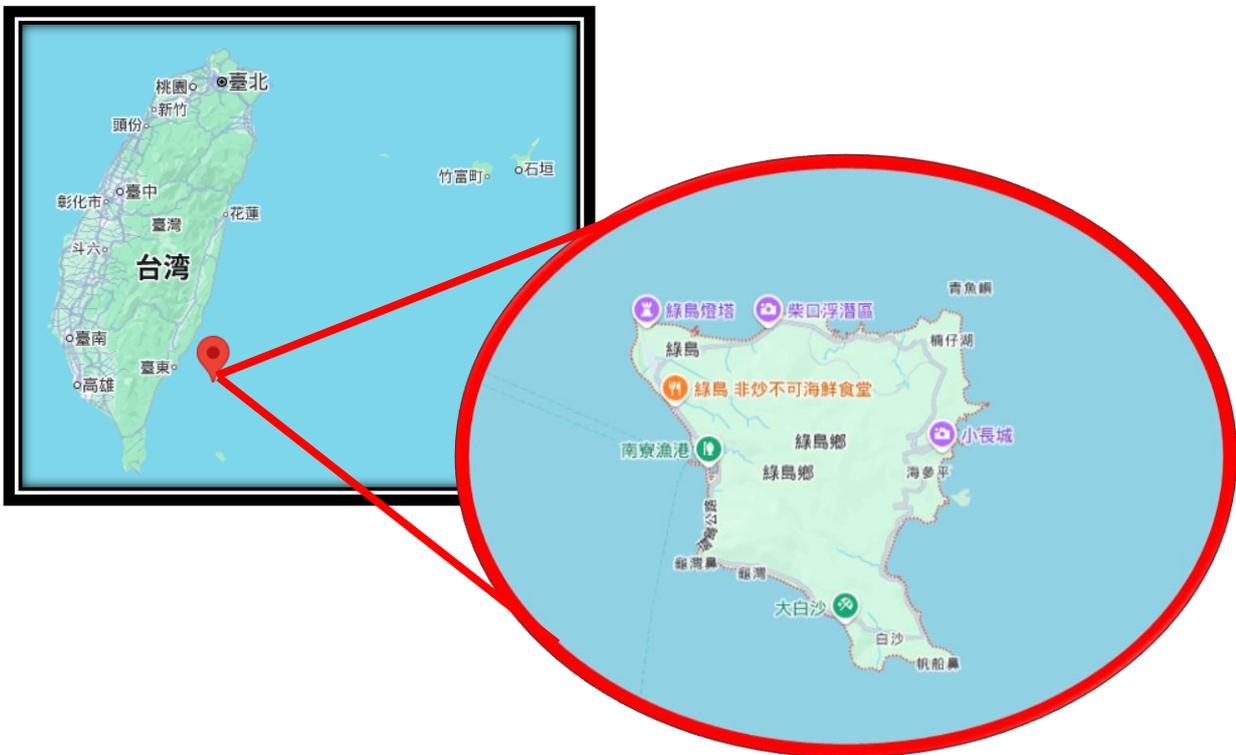
視察概要	1
企画書	2
行程表	3
レポート	4～15
写真及び備考	16

## 視 察 概 要

- 1 研修日程 : 令和6年12月18日～令和6年12月23日
- 2 研修先 : 台湾台東県緑島
- 3 参加者 : 別紙参照
- 4 台湾緑島の概要

台東県緑島郷に属する緑島は、台東市の東33キロの海上に浮かぶ、面積16.2平方km、人口約3,000人の島です。

安山岩で形成された火山島であり、かつては「火焼島」と呼ばれた。1987年まで政治犯収容所があったことでも知られている。珊瑚礁に囲まれた島であり、台湾を代表する観光地の一つで、夏の観光シーズンだけで、約30万人程度の観光客を受け入れをしています。



## 緑島視察団名簿

No.	氏名	所属	役職	性別	備考
1	ナカ 名嘉 リツオ 律夫	伊平屋村	村長	男	団長
2	ウエハラ 上原 タツミ 拓海	伊平屋村企画財政課	課長補佐	男	
3	レイ 伊礼 ナオキ 直樹	伊平屋村農林水産課	課長	男	
4	ヨナハ 与那覇 ダイジロウ 大二郎	伊平屋村観光交通課	課長補佐	男	
5	ニシメ 西銘 タカヤ 琢也	伊平屋村教育委員会	主任	男	
6	ウエハラ 上原 ケンゴ 健吾	伊平屋村移住定住促進室	係長	男	事務局
7	ミヤギ 宮城 フツグ 普巳嗣	伊平屋村商工会	会長	男	
8	オミナ 與那嶺 アカネ 茜	伊平屋村商工会	会員	女	
9	アサト 安里 ミツル 充	伊平屋島観光協会	会長	男	
10	ミヤギ 宮城 ユウイチ 友一	伊平屋村漁業協同組合	理事	男	
11					
12					
13					
14					
15					

## 企画提案書/兼実施要項

事業名	先進地調査・研修会「台湾緑島視察研修」
主催・共 協力団体	主催：伊平屋村 協力：緑島役所、商工会、観光協会、漁業協同組合
目的	緑島の文化、歴史、産業、観光、教育などの理解を深め、伊平屋村と緑島の姉妹都市締結に向け、深い絆を築くことを目的とする。
実施期間	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）：5泊6日研修
対象	伊平屋村、伊平屋村商工会、伊平屋島観光協会、伊平屋村漁業協同組合
運営計画	<p><b>【取り組み・調査内容】</b></p> <p>1</p> <p>① 関係機関：緑島役所や関係機関を訪問し、地域の政策や教育交流（児童交流等）の可能性を探ります。</p> <p>② 歴史文化：博物館等を訪問し、緑島の歴史や文化を学びます。</p> <p>③ 姉妹都市：将来的な姉妹都市締結に向けて人的ネットワークを築きます。</p> <p><b>【タイムスケジュール】</b></p> <p>・タイムスケジュール：別紙1</p> <p><b>【視察研修参加者】</b></p> <p>・参加者名簿：別紙2</p> <p><b>【管理運営】</b></p> <p>伊平屋村移住定住促進室 上原健吾：TEL0980-46-2005</p> <p><b>【その他】</b></p> <p>① 視察研修後、意見を集約し、報告書を作成するとともに、村のHPにて公表する。</p>

## 視察研修出張行程表

期間： 令和6年12月18日～令和6年12月23日

用件： 台湾緑島視察研修

月日	時間	所要	交通機関	日 程	備 考
12月18日 (水)	9:00 ~ 10:20	80分 (1時20分)	フェリー	前泊港～運天港	
	10:20 ~ 12:30	130 (2時10分)	車 (各自で)	運天港～那覇市	
	12:30 ~ 13:30	60 (1時00分)		昼食 (台湾沖縄事務所)	ホテルコレクティブ 3階 居易園
	13:30 ~ 17:50	260 (4時20分)		自由時間	
	17:50 ~ 18:00	10 (0時10分)		那覇空港出発ロビー集合	
	18:00 ~ 19:30	90 (1時30分)		搭乗手続き等	
	19:30 ~ 20:25	55 (0時55分)	CI 133	那覇空港～高雄空港	到着時刻より台湾時間
	20:25 ~ 21:00	35 (0時35分)	バス	高雄空港～ホテル (高雄市内)	宿泊：高雄城市商旅 (真愛館)
12月19日 (木)	7:20 ~ 7:30	10 (0時10分)		ホテルロビー集合	
	7:30 ~ 11:00	210 (3時30分)		ホテル～台東県	
	11:00 ~ 11:55	55 (0時55分)		台東県政府表敬訪問	
	11:55 ~ 13:30	95 (1時35分)		昼食	
	13:30 ~ 14:20	50 (0時50分)	高速船	大東富岡漁港～南寮漁港 (緑島)	欠航のため、市内視察
	14:20 ~ 17:00	160 (2時40分)		緑島各関係者へ表敬訪問	
	17:00 ~ 21:00	240 (4時00分)		夕食懇談会	
12月20日 (金)	9:00 ~ 21:00	720		朝食	
				緑島役所へ表敬訪問	
				昼食	
		(12時00分)		緑島各関係者へ表敬訪問	宿泊：緑悠島民宿
				夕食懇談会	
12月21日 (土)	～			朝食	
	10:30 ~ 11:20	50 (0時50分)	高速船	南寮漁港～大東富岡漁港	
	11:20 ~ 15:10	230 (3時50分)		市内視察 (農業、漁業関係)	昼食を含む
	15:10 ~ 16:10	60 (1時00分)	立栄航空	台湾松山空港へ	
	16:10 ~ 16:40	30 (0時30分)		台湾松山空港着	
	16:40 ~ 17:55	75 (1時15分)		ホテルチェックイン (自由時間)	宿泊：オーチャードホテル
	17:55 ~ 18:55	60 (1時00分)		市内レストランにて夕食	
	18:55 ~ 20:55	120 (2時00分)		市内散策	
				市内視察	
				昼食	
	16:50 ~ 19:20	150 (2時30分)		台北空港～那覇空港	到着時刻より日本時間
	19:20 ~ 19:50	30 (0時30分)	車 (各自で)	各自宿泊先	
12月23日 (月)	11:00 ~ 12:20	80 (1時20分)	フェリー	運天港～前泊港	

※那覇空港～台湾高雄空港までのフライト時間は、約1時間55分です。

※那覇空港～台湾松山空港までのフライト時間は、約1時間30分です。

# 研修レポート

令和7年1月9日

所 属	企画財政課	氏 名	上原 拓海
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾（高雄、台東、緑悠島、台北：松山）		
テ ー マ	台湾緑島視察研修		
研 修 内 容	<p>12月18日（水） 那覇空港～台湾高雄到着</p> <p>12月19日（木） 高雄～台東 表敬及び台東懸茶葉体験</p> <p>12月20日（金） 台東～緑悠島 役場表敬・刑務所施設視察</p> <p>12月21日（土） 緑悠島刑務所視察、島内観光地視察～台東空港～台北：松山へ移動</p> <p>12月22日（日） 台北視察～那覇空港へ</p>		
成 果 / 感 想	<p>12月18日（水） 那覇空港より、台湾高雄へ移動のみだった初日では初の海外研修となり言葉の壁やパスポートの手続など戸惑うことが多かった。高雄空港到着後は、税関審査や保安検査場を通過し無事入国を得ると、通訳の与那覇さんが紹介され同行と案内で大変心強かった印象を持ちました。</p> <p>12月19日（木） 高雄から台東懸へ移動する二日目は午前のバス移動が中心となり、移動する際のバスからの景色は都会の風景から一変して自然豊かな田園風景が広がった。また、先住民（アミ族、ペナン族、ルカイ族、ブヌン族、パイワン族、タオ族等）の多様な種族の紹介があり、言葉による方言（イントネーション）の違いも教わった。台東懸の県庁を訪れ知事より歓迎のあいさつを頂くと共に、この日は予定していた緑島への移動は天候不良により後日となったため、予定を変更して茶葉体験やコーヒー体験を実施した。茶葉の製法においては長い歴史からの製法を視察し香りや風味を楽しむ作法も教わり、伝統的な歴史の体験を味わうことが出来た。お茶の製法は脈々と続く世代の継承により大変奥深く地域に根強く残っている産業であった。</p> <p>12月20日（金） 台東ターミナルから緑島へ渡るこの日は、昨日からの天候不良に海が少々荒れている情報があった。緑島付近の海流は南からの黒潮海流が北上しており季節的にあれる天候の日が増えると言う。荒天時の船の揺れを感じながら無事緑悠島へ渡ると、役場職員の作成した横断幕と共に歓迎の出迎えをいただいた。緑島役場では町長から歓迎のあいさつをいただくと、両島の代表により視察団をはじめ職員紹介を行った。それぞれの島の魅力や伝統的な文化を紹介するため、PVとともに職員により魅力を伝えた。また、緑島と関係職員や団体との交流会・懇親会では、緑島の観光形成の経緯について情報交換を行った。海の郵便局の設置によりドコにもない取り組み事例が観光客にヒットしたことなど、各事業者が積極的にマリンレジャーや観光振興取り組んでいる分、自然と地域経済の活性化が図られ行政がリードすることなく成り立っている状況には、伊平屋村との大きな違いが感じられた。お土産や特産品などの物販関係の販売なども力を入れている様子では商工会などの組織の推進も各事業者同士で協力し意見交換を積極的に行っているのだと言う。農業や漁業においては家庭内菜園や島内消費のみを漁獲（シイラやカジキなど）を行い、エビやカニなど台湾でも文化的に食すようだが、日本と同様に高級な食材であるようだ。主に春夏のシーズン（3月～9月）が稼ぎ時とのことで、年間30万（2,500人／月）の観光客が訪れ約300戸の宿泊施設があり温泉やマリンレジャーの産業が盛んで、島内の移動はほぼ90%が「原付バイク」が利用される。今回訪れた12月においてはオフシーズン（10月～2月）となっており夏で稼いだ資金を施設の維持費や修繕費に利用し、貸出する道具などの手入れなどを行うのが通年となっているとのこと。役所の方や議員をされている方も副業として経営している方が一部いるようで、驚いたことに年間1億を稼ぐ方もいるとのことであった。</p>		

所 属	企画財政課	氏 名	上原 拓海
成果/感想	<p>役所に入ってくる税金も気になったため副業は良いのか訪ねると「税金は役場に収入として入らず、一旦は全て国の中心に納める」とのこと。一旦全体で納められた税金から各自治体へ配分されるとのことで、日本のような仕組みではないことは海外との違いも感じられた。懇親会も大いに盛り上がった。</p> <p>2月21日（土） 緑悠島刑務所視察、島内観光地視察～台東空港～台北：松山へ移動  緑悠島刑務所は、島の観光にも利用されていると言う。実際の受刑者も入っており更生の取り組みとして政府が刑期が終了した後も、社会で働けるよう支援・サポートを行っているとのこと。この日は、昼食後、台東空港への移動から台北空港までの移動日となった。</p> <p>12月22日（日） 台北空港～那覇空港へ 移動のみ</p> <p>～総括～  今回の台湾視察においては、伊平屋村から各団体（伊平屋島観光協会、伊平屋村商工会）を含め10名が参加した。緑悠島の視察においては観光産業の概念におけるシーズンの働き方や年間の入域観光客数は本村の規模感と大きく異なり、すでに年間30万人が来村することから経済効果は大きいと感じた反面、主要道路や建物などの公共インフラはまだ改善が必要など、国などの補助金制度がなく工事や改修の目処は立たないことから伊平屋村や沖縄県における公共インフラの整備状況に互いに島の状況を視察することで、良い点や改善点（課題点）についてこれまでの経緯など情報交換をすることが出来た。本村に於いては観光産業は一部行政主体が推進している状況もあり、緑悠島のように行政に頼らず事業者が主体的にレスポンスを求め率先的に行うことで、入域観光客数の増加を継続的に持続可能な体制へと発展できる可能性を感じました。幸い、商工会の宮城会長からも事業者や商工会ですぐ出来ることや行政と共同して取り組むことを今後求めたいとの意見もあったことから、今回の視察は互いにより機会になったのではないかと感じます。</p> <p>また、緑悠島との交流においても今後、姉妹都市協定や人事交流（子どもや大人関係なく）を実施していきたい旨の意見交流もあったことから、事業の立案を提案して一括交付金の英語学習支援事業（教育委員会）の事業に追加する形で海外短期留学や台湾との人材交流による学習プログラムの追加も検討できないかと考えます。今回の視察における費用も約300万と高額なことから村単独予算ではなく事業メニューとして立案できればと思いました。村職員も島外や海外への旅行により視野を広げるための視察研修により村の良い点や課題点に対して、主体的に業務に生かすことが可能になるのではと感じます。閉鎖的な本村において島外への研修は自身の考えを刺激し考え方の拡充にも繋がると感じますので、今回の研修により関わった方々が今後も伊平屋村に来村すると思いますので台湾との交流が推進できるよう職員として行動していきたいと感じます。</p>		
備 考			

# 研修レポート

令和7年 1月 6日

所 属	農林水産課	氏 名	伊礼 直樹
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾緑島		
テ ー マ	台湾緑島視察研修について		
研修内容	緑島の文化、歴史、産業、観光、教育などの理解を深め、伊平屋村と緑島の姉妹都市締結に向け、深い絆を築くことを目的とする。		
成果 / 感想	<p>台湾（緑島）は本村よりも地理的環境は厳しい所でしたが伊平屋にはない資源（温泉）があり観光客が年間25万人程度を推移している。農林水産業についてはかなり厳しく、自給自足が困難な環境であり、道路や土地改良等のインフラ整備が必要であるが緑島役場職員のお話を伺うと今後の整備も厳しい状況であると感じました。しかし、現状でもこれだけの観光客数が推移していることから観光産業を更に一年間を通して安定させて行く方がメリットは大きいのかと感じました。県内であれば座間味村に近い状況で観光産業が主な産業であるが年間観光客数は8万人程度なので3倍以上の観光客数のひらきがある。それを考えてみると県内では同規模の島の大きさでは同じ経済規模はない事がわかる。それを踏まえて今後は緑島と姉妹都市締結を行い、台湾や中国圏の皆様にアピールをして行き観光客数増に向けて行政職員及び民間での交流を活発化させ緑島と伊平屋村の産業活性化に向けて知恵を出し合う場を設ける必要があると思います。緑島の観光客数25万人であることから5%の方に伊平屋村へ足を運ぶ仕組みをつくる事で単純に12,500人の観光客数が増えます。国がちがうのでこれをきっかけにお互いの島をアピールして行きお互いの島がWINWINになれるよう交流を継続していく必要があると思います</p>		
備 考	<p>県内の離島観光客数 目安 宮古島 93万人・石垣島 83万人・久米島 9.3万人・伊江島 13万人・座間味島 8万人・伊平屋島 2.5万人</p>		

# 研修レポート

2025年1月6日

所 属	伊平屋村観光交通課	氏 名	与那覇 大二郎
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾・緑島		
テ ー マ	台湾の緑島を視察し、両地域の文化、経済、観光資源などについて理解を深め、今後の姉妹都市締結に向けた基盤を築くことを目的とする。		
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑島の歴史や文化、産業等について意見交換を行い、地域住民との交流を図る。</li> <li>・ 地元の特産品等を見学し、相互交流や連携の可能性を探る。</li> <li>・ 緑島の観光名所を視察し、観光施策について意見交換を行う。</li> <li>・ 両地域の観光プロモーション活動について意見交換を行い、相互に活用できる施策を検討する。</li> <li>・ 農業や漁業など、地域産業の振興に向けた協力体制について意見交換を行う。</li> </ul>		
成果/感想	<p>緑島は台湾の東部約33kmに位置する離島で、台東県に属している。かつては政治犯収容所が存在していたが、現在は観光地として人気があり、特に夏季にはダイビングやシュノーケリング、釣り客など多くの観光客が訪れるそうで、年間の観光客は30万人～40万人にのぼる。5月～9月頃の観光シーズンには毎週のように観光客が訪れ、週に4、5千人の来島があると聞き驚いた。この時期に観光業者は繁忙期を迎え、逆に視察を行った冬場のシーズンは休む事業者が多く、多くの店舗（主にマリン関係）が休業中であった。緑島の観光名所のひとつに海底ポストがある。これは世界一深い海底ポストで水深12mに設置されており、観光客がダイビングの際に海中ではがきを投函できるよう設置された。専用のはがきが島内で販売されており、投函されるほとんどののはがきが海外へ発送されることから、世界中の人々に緑島を知ってもらえる機会になっている。また、ダイバーは投函のついでに海中ゴミを拾い環境活動にも協力してもらっている。このポストを設置した方（緑島商工会代表：陳さん）へ話を聞くと、はがきの販売収入（1枚350円）は島内の小学校へ全額寄付しており、環境活動と慈善活動で好循環を生みだしているとのことだった。同様の海底ポストは沖縄県内でも設置されているところがあるが、こういった社会還元方法は行っておらず、クリエイティブな方法で教育格差や環境保全意識の改善に取り組んでいた。</p> <p>緑島のイベントの一つに、マラソン大会（9月）がある。毎年秋になると季節風（モンスーン）が吹き、植物が枯れ、島一帯が茶色に染まることからかつては「火焼島」（火に焼けた）と呼ばれていたことから、「火焼島全国マラソン大会」という名称がついている。大会の特徴として、かつて政治犯を収容する刑務所があったことから、参加者は記念品として配られた囚人服に身を包み大会へ参加する。完走メダルも特徴的で、台湾の他のマラソン大会と協力し、火焼島マラソンを含む3つの大会それぞれで完走すると貰えるメダルを組み合わせると、一つのメダルが完成するような取り組みも面白いと感じた。その他、小学校での取り組みの一つにダイビングライセンスの取得があった。島内の小学生は6年生になるまでに全員がダイビングのライセンスを取得できるよう授業で取</p>		

所 属	伊平屋村観光交通課	氏 名	与那覇 大二郎
成果/感想	<p>り組み、卒業式の日には卒業証書を海底10mに受け取りに行く伝統行事があった。この取り組みは単なる卒業式のイベントだけではなく、子供たちが島を出た後も島に帰ってきて観光業に従事することができるように、島の産業に寄与する取り組みの一つでもあると聞いた。海上運動会やカヤックで保護者と島を一周する行事もあった。</p> <p>また島内では、島の観光資源を守るための取り組みとして、釣りやダイビングが可能な場所を決めていた。島内の海岸線には釣り、ダイビング可、潮の流れが速い危険な場所が記載された看板が設置されており、ダイビングスポットにはAEDも設置されていた。その他、観光施設のトイレにはペーパーの有無や汚れの程度など利用者が役場に連絡できるようにQRコードが設置されており、行政の目の届きにくいところにも必要に応じた対応ができるよう工夫されていた。</p> <p>観光関係では、緑島内の宿泊施設は100件以上あり、宿泊単価は6,000円～15,000円が多い。緑島が観光で注目され始めた頃、島内で民宿やマリン業者が増え始めたが、あまり深く考えずに安易に始める方が多く、コンテナを積んだ簡易的な宿泊所が乱立したそう。そのためか、通りには錆びたコンテナが散見され景観を損なっていると感じた。コンテナは様々な場所で使用されていて、宿泊施設に限らず、ダイビング事業者の事務所や倉庫として島内に多く存在していた。島内の事業者の傾向として、行政まかせだとスピード感が遅く、緑島を訪れる観光客に対して十分な対応が出来ない。逆に自分たち民間は素早い対応と元気もあるのである程度自由にやっているとの事だった。この点については、行政との十分な意見交換が重要だと感じた。</p> <p>緑島には過去に政治犯の収容所があり、政府による不当な扱いを受けた多くの囚人たちが長い時間を島で過ごした歴史があるが、囚人をテーマとしたマラソン大会の開催や、土産品の開発など、過去の負の遺産を島の観光材料へと転換することで、島の歴史、文化を島外に発信し、緑島の観光産業の発展に寄与していた。今回の視察研修では、緑島の文化や生活様式についての理解が深まり、今後の交流活動に向けた重要な第一歩になった。今後、姉妹都市締結に向けた具体的な協定内容や交流プログラムの策定を進めるとともに、定期的な情報交換や、共同イベントなどの開催を通じて持続的な関係構築を推進していく必要があると感じた。伊平屋村と緑島の交流を通じ、観光資源の共有や文化の発信が可能となり、両地域の発展に寄与することが期待される。両地域の住民同士の交流が活発化し姉妹都市締結が実現されることを期待したい。</p>		
備 考			

# 研修レポート

令和6年12月26日

所 属	伊平屋村教育委員会	氏 名	西銘 琢也
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	緑島		
テ ー マ	緑島の歴史及び民間と行政の関わりについて		
研 修 内 容	緑島の文化、歴史、産業、観光、教育などの理解を深め、伊平屋村と緑島の姉妹都市締結に向け、深い絆を築く		
成 果 / 感 想	<p>緑島は離島にもかかわらず、繁忙期には30万人もの観光客が来島する人気の観光地である。観光の目玉は、ダイビングや監獄めぐりが人気がある。中国の統治下あった時代には、台湾全土に戒厳令が施行され罪のない民間人が緑島内にある監獄へ収容された時代もあった。</p> <p>そういった時代を乗り越え、原住民の方々や緑島をもっと知ってもらおうと、島外の人にもアイデアを出し合い観光の目玉となるマリンアクティビティを前面に売り出した。運営上の資金については、必要最小限で補助を行い官民一体となった取り組みを行っている。伊平屋村の場合、役場が主体となり事業が実施されているがそれではないような縛りがあり事業実施が遅くなる。また、行政の知識だけでは限界があり長続きしない事のほうが多いと感じる。事業主体を民間に任せ、役場は資金面・援助などサポートする側といった、役割を分けて事業等を実施したほうが良いと感じた。緑島の視察に参加した、商工会員等・漁協・役場職員での会合を設け、今後の方向性や役割を明確にした取り組みをしていく必要がある。</p>		
備 考			

# 研修レポート

令和6年12月26日

所 属	移住定住促進室	氏 名	上原 健吾
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾台東県緑島郷		
テ ー マ	緑島の歴史及び民間と行政の関わりについて		
研修内容	緑島の文化、歴史、産業、観光、教育などの理解を深め、伊平屋村と緑島の姉妹都市締結に向け、深い絆を築く		
成果/感想	<p>緑島の観光シーズンは夏で、繁忙期にもなるとシーズンだけで20万～30万人の観光客が押し寄せ、1日に約3,000人が訪れる。緑島は世界でも有数のダイビングスポットが多数あり、港周辺の道路沿いには数多くのダイビングショップ、レンタルバイク店、飲食店、民宿などがあったが閑散期のため、シャッター街となっていた。ダイビング客に人気なのが世界一深い海底ポストです。また、緑島は別名監獄島とも呼ばれており、島内に4箇所監獄が設置されていて、1950年代の戒厳令では、高官や医者など高学歴という事だけで、罪のない人までもが収容されていた。緑島ではこうした負のイメージを変えるべく、観光の目玉へ逆転の発想することで、新たな観光客の誘致に成功している。</p> <p>また、緑島の観光地で星空スポットがあり、寝るタイプのベンチがあったが、伊平屋村でも同様な星空スポットを整備し、新たな観光の目玉としても面白いと思う。</p> <p>緑島の陳さんとの雑談では、児童交流の話があり、お互いの地域を理解してもらえるよう1週間～2週間程度の交流を締結書には記載してほしいとの申し出もあり、役場、教育委員会、学校、保護者など関係者を含めて会議をし、方向性を決定する必要がある。</p> <p>今回の台湾緑島視察を終えて、緑島の行政、観光地、人民博物館をめぐり、緑島の歴史文化などの理解が深めた。また、緑島郷長や主席（日本でいう議員）民間代表者など通訳を介してのコミュニケーションや通訳がない場合は、英語でコミュニケーションを取り、緑島関係者との人脈を構築でき、姉妹締結に向けてとてもよい視察であった。</p>		
備 考			

# 研修レポート

令和7年1月26日

所 属	伊平屋村商工会	氏 名	宮城 普巳嗣
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾台東県緑島郷		
テ ー マ	緑島の歴史及び民間と行政の関わりについて		
研修内容	緑島の文化、歴史、産業、観光、教育などの理解を深め、伊平屋村と緑島の姉妹都市締結に向け、深い絆を築く		
成果/感想	<p>まず、私達商工会として一番印象が残ったのは、観光オンシーズンで（5月～10月）の6ヶ月間で30万人～40万人の観光客が押し寄せてきて、1日に平均2,000人が訪れます。また、飛行機も飛んでいます。滑走路は900mで19名乗りのプロペラ機が運行しているとのこと。しかも、15名は島内の方で観光客用は4名だという事でした。では、どのようにオンシーズンで30万人～40万人の観光客を迎え入れるのかを聞きました。</p> <p>船は、オンシーズンは約250名乗りを8便運行しているという事でした。 （※オフシーズンは、4便運行）</p> <p>そこで、疑問点が生まれ、では伊平屋島のフェリーⅢではオンシーズンの6ヶ月で何名迄呼べるのか？キャパ数はどれくらいなのかを調べました。</p> <p>単純に、上限客数400名×2便×180日で計算すると、なんと14万人も呼べる事がわかりました。また、オンシーズンのみ3便運航でも考えました。観光客数21万6千人も呼べます。</p> <p>そこで、900mの滑走路計画では、飛行場は伊平屋島に必要なのではないかと思いました。飛行場での財政公積を多く増やすよりも、島内の観光に力を入れ、そして島外の方の大手業者などを誘致するには、島の条例（ルール）等を作成し、第2の石垣島にならないよう。整理もした方がよいと思います。そして小規模離島特有ならではの、緑島も15の春の旅立ちがあります。</p> <p>緑島は、15の卒業式にダイビングで卒業証書を渡すそうです。同時にダイビングの資格も取得するという事でした。そこで、Uターンで帰ってくる子供達が島でダイビングショップを開業したりして、Uターン率も高いそうです。（人口3,600人）このやり方は台湾ならではのようですが、伊平屋島も伊平屋特有の在り方で、子供達に良い思い出作りや伊平屋島の就職につながるあり方を行い、選択幅に入れ込むのも手だとも思いました。また、歴史では監獄島という事を観光に繋げ、他にない緑島ならではの差別化も図っていることも観光客数が多い要因だとわかりました。伊平屋島では、日本、世界で知られている天岩戸伝説があります。その伝説を表に出していき観光に繋げていければと思います。今回の緑島研修とても勉強になる研修でした。ありがとうございました。</p>		
備 考			

# 研修レポート

令和7年1月10日

所 属	伊平屋村商工会	氏 名	與那嶺 茜
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾台東県緑島郷		
テ ー マ	今後の島の観光、自分のありかたについて		
研修内容	観光、産業、教育を学び、姉妹都市締結に向け意見交換を行う		
成果/感想	<p>人間性や食べ物や島全体の景色など似ている部分がたくさんあるにも関わらず、緑島は商業が発展しているけれど、インフラ整備が行き届いてない部分があり、それとは真逆で伊平屋島はインフラ整備がされているけれど商業はこれからという現状に、お互いが良い手本となり今後島を発展させていくことができると確信しました。</p> <p>緑島では、昼は観光地巡りやダイビング体験、夜はナイトオークラリィーや星空観察のツアーを組んでいるようです。伊平屋島では個人的にそのような一貫ツアーを組むと新たな楽しみ方として需要があるのではないのでしょうか。また、視察の際星空観察用に寝そべるベンチがあったのですが、低コストで作ることができ、伊平屋のちょっとした観光スポットになるのではないかと思います。</p> <p>個人的に、1日3,000～5,000人来島者のある繁忙期（4月～10月）に、どのような体制で観光客を受け入れているのか、またサービスを提供しているのか気になり、緑島の議長何富祥様ご夫婦が営む緑島1番のキャパを有するホテルで、朝食から清掃、受付までの1日の流れを見せてほしいとお願いしたところ快く受け入れてくれ、来年の繁忙期に職場体験をさせていただきます。</p> <p>今回初外国で不安でしかたなかった台湾視察研修旅行でしたが、一緒に行った方々や異国の方々と交流ができて新たな発想や再確認、何より自分自身の経験値が上がったように感じます。視野を広げ、高みを目指し自分自身を成長させていきたいと思えます。</p> <p>余談ですが、毎日たくさんの台湾の伝統料理や家庭料理を食べてみて、自国の御飯が恋しくなる気持ちになりました。帰る場所がある、待っている人がいるということはすごく当たり前のようで当たり前じゃない幸せを感じ、そういうホテルを目指して日々精進してまいります。</p>		
備 考			

# 研修レポート

令和7年1月10日

所 属	伊平屋島観光協会	氏 名	安里 充
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾台東県緑島郷		
テ ー マ	緑島の歴史及び民間と行政の関わりについて		
研修内容	緑島の文化、歴史、産業、観光、教育などの理解を深め、伊平屋村と緑島の姉妹都市締結に向け、深い絆を築く		
成果/感想	<p>台湾本島の太平洋側に浮かぶ緑島は、面積16.2平方キロ人口が約3,000人の島で、気候や野山に自生する植物等が沖縄や伊平屋などで見かけるものも多く見慣れた風景は、とても身近なものに思えた。伊平屋島と同じ離島である緑島の観光資源は、私たちの伊平屋島と同じく透明度が高く澄んだ青い海や野山の植物である。島内を一周する道路は、18キロほどで伊平屋島の半分ほどであるが一周道路の、どの位置からも青い海を見る事が出来るのは同じである。その他に、星空観測も大きな観光資源として活用されており伊平屋島でも本土からの中、高校生の修学旅行や小学生の離島体験などで星空観測は、大変好評でありよく似た状況だと感じた。</p> <p>緑島に着いて最初に目に付いたのは、港周辺に並べられた数多くのバイクである。緑島では、公共の移動手段が無く移動手段としてレンタルバイクが大きな役割を占めている。私たち伊平屋島は、コミュニティバスを運行しているが、島民の利用度も少なく初めて島に来た人々が利用する頻度も多いとは言えない。緑島も伊平屋島も島に来た旅行者の移動手段の確保、改善が急務だと思います。</p> <p>緑島と伊平屋島の観光客数を比べると比較にならないほどの開きがあり、現状の来客数に対しての伊平屋島の宿泊可能な数値は、現状では、十分とは、言えず観光協会の行っている修学旅行、離島体験等に於いても現状は、厳しい状況にあり早急の対策が必要と思います。その他、台湾での交流の場で、姉妹都市提携や児童交流の話がありましたが、関係各部署での協議等を重ねて実現できるよう期待したい。</p>		
備 考			

# 研修レポート

令和7年1月17日

所 属	伊平屋村漁業協同組合	氏 名	宮城 友一
日 時	令和6年12月18日（水）～12月23日（月）		
場 所	台湾台東県緑島郷		
テ ー マ	緑島の歴史及び民間と行政の関わりについて		
研修内容	緑島の文化、歴史、産業、観光、教育などの理解を深め、伊平屋村と緑島の姉妹都市締結に向け、深い絆を築く		
成果/感想	<p>今回の緑島訪問では、私は漁業者代表として視察交流を行いました。</p> <p>緑島の海の形状は伊平屋島とは異なりますが、魚種は同じ者が多く、漁業産業としては一本釣りや潜水漁など伊平屋島お漁業と同じで、これからの交流を通して行く中で、お互いの漁業はより発展していくものと感じました。</p> <p>また緑島は世界的にも海のレジャーが有名なこともあり、伊平屋島の漁業者も緑島を参考に伊平屋ブルーをアピール出来れば、緑島とは違った伊平屋島特有の観光業にもつながると思われます。</p> <p>今回の視察は漁業者としての目線ですが、緑島ではダイビングを世界的に有名にするために、海底ポスト、ハート型の鉄筋や十字架が海中に設置されており、映えスポットを作っていた。緑島での取組は、漁業、マリンレジャーの発展にはとても参考にする事が多くあった。</p> <p>伊平屋村の発展には、マリンレジャーが重要だと再認識しました。</p>		
備 考			

## 視察研修写真



大台県政府



大台県政府



大台県政府



緑島南寮漁港（出迎え）



緑島郷公所



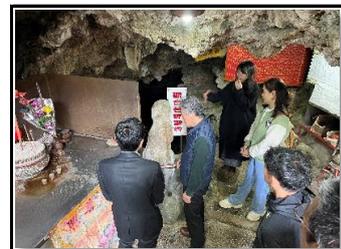
国家人権博物館



国家人権博物館



緑島観音堂



緑島観音堂



星空観測所



星空観測所



小長城歩道



緑島監獄



大草原



国立故宮博物院

### 備考

緑島視察について、台湾の新聞で掲載されましたので、下記URLにてご確認ください。

1. 令和6年12月19日の新聞記事

<https://www.chinatimes.com/realtimenews/20241219004137-260421?chdtv>

2. 令和6年12月20日の新聞記事

<https://www.chinatimes.com/newspapers/20241220000712-260107?chdtv>